

# 広報で振り返る成田の「平成」



平成の時代、門前まちとしての歴史を持つ成田は、日本有数の空の港まちとしても、大きな発展を遂げました。

世界にも名を知られる都市になっても、いつも大切にしてきたのは、市民の皆さんのそばにあること。

「広報なりた」は、まちと市民の皆さんをつなぐ役割を担い、情報を発信し続けてきました。平成に発行したその数は727にも及びます。

平成最後となる今号では、これまで掲載した記事とともに「平」らかな「成」田が歩んだ時代を振り返ります。

平成が始まったその年、建設工事が進められていた市役所の新庁舎が完成しました。平成2年にはJR成田駅西口、平成6年には京成成田駅東口の土地区画整理事業が完了。さらに京成公津の杜駅が開業するなど、交通の利便性が向上しました。平成7年には、後に「成田弦まつり」となる「御利生祭」が初開催。また、市ホームページの開設やリサイクルプラザのオープンなど、コンピューターの急速な進歩や環境問題への意識の高まりといった時代を反映する出来事がありました。



①「人口15万人の未来都市に対応」した新庁舎(平成元年11月1日号)



⑥部屋の間取り図も併せて掲載された(平成8年3月15日号)



③市のシンボルマークを一面に(平成6年3月1日号)



④「しゃれた3階建」と紹介された公津の杜駅(平成6年4月15日号)



②9月8日・19日に襲来した台風の被害を報じる(平成3年10月15日号)



⑤御利生祭では成田ゆかりの人物の行列が(平成7年11月15日号)

- 元年 ○市役所新庁舎の竣工式典挙行政①
- 2年 ○「平成小学校」開校
- 3年 ○アメリカ・サンブルーノ市と姉妹都市締結
- 3年 ○JR成田駅西口土地区画整理事業完了式典挙行政
- 3年 ○大字「美郷台」誕生
- 4年 ○大型台風15号と18号による豪雨被害発生②
- 4年 ○京成成田駅東口広場デッキ地下自由通路開通
- 4年 ○成田空港第2旅客ターミナルビル完成
- 5年 ○市役所の全ての土曜日が閉庁となる
- 6年 ○市のシンボルマークを制定・市の花を「あじさい」に決定③
- 6年 ○京成公津の杜駅開業④
- 6年 ○京成成田駅東口土地区画整理事業完了
- 6年 ○市制施行40周年記念式典挙行政
- 7年 ○阪神・淡路大震災の義援金活動が市内で活発に
- 7年 ○第1回成田時代絵巻「御利生祭」開催⑤
- 8年 ○市営北園護台団地完成⑥
- 8年 ○市ホームページ開設
- 10年 ○リサイクルプラザがオープン
- 12年 ○韓国・仁川広域市中区と友好都市締結
- 12年 ○さくらの山の供用開始
- 13年 ○成田空港周辺市町村と空港公団が協定締結
- 13年 ○宗吾霊堂で「全国義民サミット」開催
- 14年 ○韓国・井邑市と友好都市締結
- 成田空港暫定平行滑走路の供用開始
- サッカーワールドカップ、ドイツ・ナイジェリアチームが中台運動公園陸上競技場で練習⑦



⑨保健・医療・福祉の拠点に(平成14年8月1日号)

「平成の大合併」の動きを受け、成田市でも市民の意見を聞くためアンケート調査を実施。2年以上の歳月をかけて協議し、平成18年3月に成田市・下総町・大栄町が合併して新「成田市」が誕生しました。また、スポーツが一層身近なものになったのもこの頃。平成14年、サッカーワールドカップ日韓共同開催に当たり、中台運動公園陸上競技場で海外の代表チームが練習を行いました。平成17年には「きらめき総体」の3競技の会場に。平成19年には、本市出身の唐川侑己さんが千葉ロッテマリーンズに入団し話題になりました。



⑫不動トンネル前で華やかなおどり花見が披露された(平成18年5月1日号)



⑩特集ページや臨時号を組み市民と共に「合併」を考えた(平成15年10月臨時号、16年1月臨時号)



⑪高校生の活躍が成田を沸かせた(平成17年9月1日号)

⑧長年の交通問題の解消を速報で(平成15年6月1日号)



⑦世界トップレベルの選手が間近に(平成14年7月1日号)



- 14年 ○保健福祉館が開館⑨
- 15年 ○囲護台踏切の立体交差化が完了し「なかよしトンネル」が全線開通⑧
- 16年 ○市町村合併の市民アンケート調査を実施⑩
- 17年 ○空港の名称が「成田国際空港」に改称
- 市制施行50周年記念式典挙行
- 「スポーツ健康都市」宣言
- 18年 ○市内初の複合施設「三里塚コミュニティセンター」がオープン
- 高校総体「2005千葉きらめき総体」開催⑪
- 人口が10万人を突破
- 19年 ○成田市・下総町・大栄町が合併し新「成田市」誕生
- 郷部線の国道51号「成田ニュータウン区間開通」⑫
- 「成田」ナンバー誕生
- 20年 ○本市出身の唐川侑己さんが千葉ロッテマリーンズ入団
- 「美郷台小学校」開校
- 成田山新勝寺総門落慶
- 21年 ○成田山新勝寺開基1070年祭記念行事実施
- 第2・4日曜日に市役所の窓口の一部開庁を開始
- 22年 ○市制施行55周年記念「成田山車まつり」開催
- 成田空港2,500メートルB滑走路の供用開始⑬
- 成田市観光キャラクター「うなりくん」誕生
- 大字「はなのき台」誕生
- 成田湯川駅開業⑭
- 「ゆめ半島千葉国体」開催
- 23年 ○市役所の総合窓口開設
- 休日窓口サービスが毎週日曜日に拡大



⑬B滑走路の延伸により就航路線が拡大(平成21年11月15日号)

平成21年には成田空港のB滑走路が延伸。平成27年にはLCC専用となる第3旅客ターミナルビルがオープンしました。平成28年には公津の杜に国際医療福祉大学が開学し、翌年には同大学医学部を開設。国の指定を受けての施策に多くの注目が集まりました。近年では、市観光キャラクター「うなりくん」の活用や、歌舞伎俳優の市川海老蔵さんを成田市御案内人に任命するなど、国内外に向けた観光・PR分野にも力を入れて取り組んでいます。

伝統と国際色を持ち合わせた成田のまちは、新しい時代も進化し続けていきます。



⑩市役所駐車場に山車・屋台が集まり60周年を祝福(平成26年5月15日号)



⑨うなりくんの人気は全国区に(平成29年12月15日号)



⑭成田スカイアクセス線が開業(平成22年8月1日号)



⑦誰もが楽しめる企画展の場が駅前にオープン(平成27年8月1日号)



⑧国際医療福祉大学医学部に1期生が入学(平成29年5月1日号)



⑮国家戦略特区の説明や構想を紹介(平成26年4月臨時号)

- 24年 成田富里いずみ清掃工場の供用開始
- 25年 「公津の杜中学校」開校
- 「もりんびあこづつ」がオープン
- 26年 成人式を成田空港で初開催
- 下総地区4小学校を統合した下総小学校と下総中学校が小中一貫教育校「下総みどり学園」として開校
- 国家戦略特区の指定を受ける⑮
- 市制施行60周年記念式典挙行⑯
- 27年 成田空港の年間発着枠が27万回から30万回へ拡大
- 成田空港第3旅客ターミナルビルがオープン
- 十一代目市川海老蔵さんを「成田市御案内人」に任命
- 成田駅前に完成したスカイタウンビルに「文化芸術センター」がオープン⑰
- 28年 J・R成田駅前広場工事完了
- 日本遺産の認定を受ける
- 国際医療福祉大学成田看護学部・成田保健医療学部開学
- 台湾・桃園市と友好都市締結
- 29年 国際医療福祉大学医学部開学⑱
- 旧豊住中学校の校舎を活用した「豊住ふれあい健康館」がオープン
- 成田空港の航空旅客数が10億人を突破
- 「ゆるキャラグランプリ2017」でうなりくんがグランプリ獲得⑲
- 30年 成田山開基1080年を祝い市川海老蔵さん親子がお練り
- 世界女子ソフトボール選手権大会開催
- まちの新しいシンボル「成田からくり時計」完成
- 市計画道路・ニュータウン中央線が全線開通
- 31年